

多様な大学入試をめざして

平成16年度大学入試センター試験



入試に個性と特色を

【大学（短期大学を含む。以下同じ。）がそれぞれに特色ある入試を実現できるよう、大学入試センターはその期待にこたえます。】

大学入試に求められているもの

大学入学者の選抜は、①大学教育を受けるにふさわしい能力・適性などの多面的な判定、②公正かつ妥当な方法、③入試のために高等学校の教育を乱すことがないような配慮、が基本的に重要だとされています。また、高等学校段階にある受験者の幅広い人間形成にも十分留意して、それぞれの個性や能力、適性を大切にしたい画一的でない多様な大学入試が、今求められています。

大学入試センター試験の活用

これまでも入試制度そのものや各大学の入試方法について、さまざまな改善・改革が行われてきました。平成2年度からスタートした「大学入試センター試験」は、これらの実績を基に創設された入試制度です。この試験は、受験者の高等学校段階での学習の達成の程度を判定することを目的としており、その利用に当たっては、各大学の創意工夫に基づく個別試験との組合せにより、多様な選抜方法の推進役ともなっています。

国公立大学の枠を超えて

大学審議会答申でも、「入学選抜において求める学生を見いだすためには、まず大学はそれぞれが特色ある教育理念等を確立することが必要であり、それに応じた入学受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確化し、対外的に明示することが求められる。その上で、実際の選抜方法や出題内容等に反映させ、それぞれの大学にふさわしい入試を行うことが必要である。」と述べられています。大学入試センター試験はこのような期待にこたえます。この試験の趣旨や内容、実施結果などを、より多くの関係者の方に理解していただき、利用大学の輪が大きく広がっていくことが望まれます。大学入試の改善は、国公立すべての大学において着実に進められていくことが、何よりも大切と考えます。

各大学の特色ある入試をお手伝い

大学入試センター試験は 利用大学ごとの自由な活用が基本

大学入学者の選抜の具体的なあり方は、各大学それぞれの自主的な検討に待つべきものです。大学入試センター試験は、このことを基本において考えられた試験で、各大学が独自の判断と創意工夫により、自由にこの試験を活用して、特色ある入学選抜を実現しようとするものです。この試験の成績は、受験者ひとりひとりの能力や適性などが多面的に判定できるよう利用されるものです。

教科・科目の利用の仕方は 各大学の考え次第

大学入試センター試験は、各大学の判断により出題する6教科32科目から、利用教科・科目を自由に指定できます。また、大学入試センター試験と調査書や面接、小論文、実技検査などを適切に組み合わせることで、各大学のカラーを鮮明に打ち出し、いわゆる輪切りによる進路指導や大学の序列化に歯止めをかけることも期待されています。

基礎学力の判定

大学入試センター試験

6教科・32科目
創意工夫による自由な利活用

個性・能力・適性などの判定

各大学個別の試験

■調査書 ■面接 ■小論文
■スポーツ・文化などの諸活動状況
■学力検査

多様な組み合わせ

各大学における特色ある入学者の選抜

利用方法いろいろ、メリット多彩

【大学入試センター試験は、利用大学独自の創意と工夫により、さまざまに活用されています。
その成果については、いろいろな反響が寄せられています。】

各大学での利用方法の一例

- 基礎的な学力を幅広く評価するため、出題教科・科目を総合的に利用。
- 一般選抜の定員の一部について、大学入試センター試験の特定の教科・科目を利用。
- 利用する教科・科目に幅を持たせ、受験者が得意なものを選択させて利用。
- 調査書と大学入試センター試験で第1次の選抜を行い、その合格者について面接試験を実施。
- 工学部において、大学入試センター試験の数学・外国語を利用。大学が行う試験は理科のみを実施。
- 入学定員の一部について、大学入試センター試験と大学が行う試験のうち、高得点の方を合否の判定に使用。
- 推薦入学について、大学入試センター試験の国語・外国語のみを利用し、大学が行う試験として面接を実施。
- 大学入試センター試験で必要とする成績水準を明示した上で、大学入試センター試験の成績がその水準に達している者は大学が行う試験に進ませ、大学入試センター試験の成績は合算せずに大学が行う試験の成績のみで合否を判定。
- 大学の自主的な判断に基づき、前年度の大学入試センター試験の成績を当該年度の入学選抜に利用することも可能。

利用によって得られた成果

- 大学入試センター試験を利用した選抜については、全科目に平均的な学力を有するオールラウンド型の学生が受験するなど、従来とは異なった層の学生を開拓することができた。
- 大学入試センター試験の利用により、今まで実施が難しかった小論文や面接を導入する余裕ができ、偏差値・輪切り型の選抜から方向転換を図ることができた。
- 受験者が全国的に広がり、受験者数も従来より増加した。
- 大学のPRに役立ち、イメージアップが図れた。
- 大学独自の試験のみで選抜を行うよりも、広範囲の教科・科目を利用した広い視野から受験者の適性の評価が行えるようになった。
- 同一大学・学部を受験チャンスが1回増えたことが受験者に好評であった。

大学入試センター試験の果たす役割など

大学入試センター試験は、昭和54年度から平成元年度まで実施された共通第1次学力試験に代えて、平成2年度から実施されているものです。

●難問奇問を排除した、良質な問題の確保

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通第1次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、現在、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

●各大学が実施する試験との適切な組み合わせによる大学入試の個性化・多様化

大学入試センター試験を利用することで、大学が独自に行う試験として、小論文、面接等を実施する大学や推薦入学、帰国子女・社会人を対象とした特別選抜を実施する大学が増えつつあります。このように、大学入試センター試験は大学入試の個性化・多様化に貢献しています。

●国公立大学を通じた入試改革

私立大学の参加数は年々増えており（平成16年度入試では、387大学）、利用した私立大学からも好評を得ています。

●アラカルト方式による大学の序列化の回避

大学入試センター試験では、利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、いわゆる輪切り、序列化を助長しないようにしており、大学入試センター試験の多様な利活用が進んできています。

協議・協力し、スムーズに実施

国公立の各大学が共同して試験の実施に当たります

大学入試センター試験は、この試験を利用する国公立大学と協力しながら、大学入学選抜の一部として、共同で実施するものです。国公立大学間でその改善や充実及び意見の集約・調整などを行う協議組織として「大学入試センター試験協議会」が置かれています。このようにして、試験実施に関する重要事項については、慎重に協議を重ねた上で決定されています。

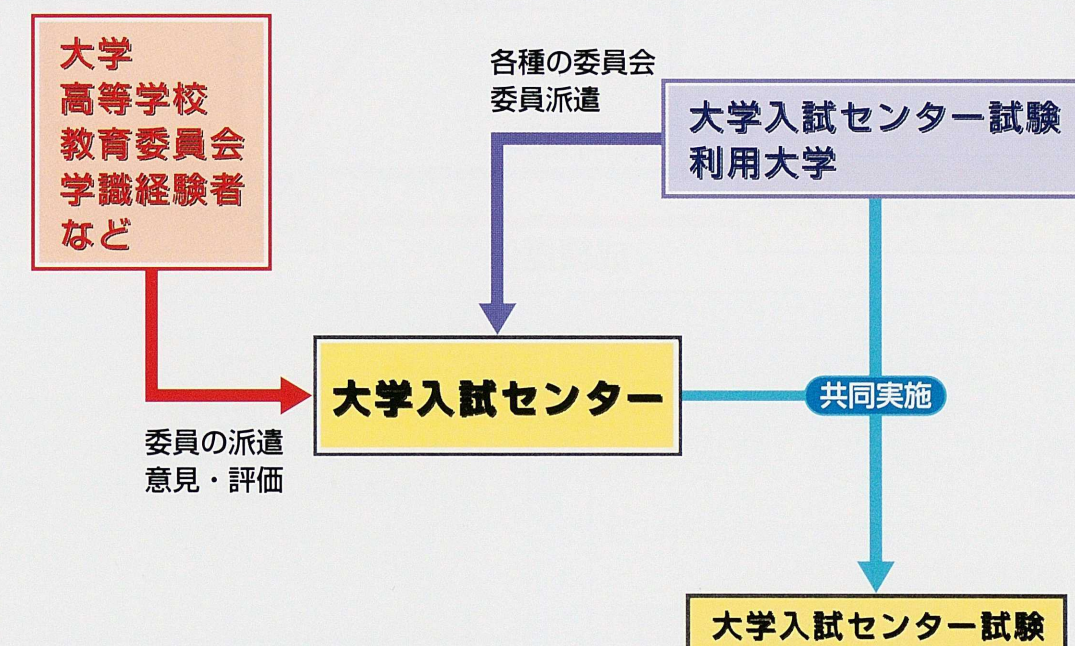
大学入試センターが試験問題の作成・答案の採点などを担当します

大学入試センターは、主として問題の作成や印刷、答案の採点、集計など、試験の実施に当たり一括して処理することが適当な業務を担当しています。

試験問題は、国公立大学の教員等による委員会において作成されています。試験終了後、高等学校関係者、関係学会等からの評価を受けています。

なお、大学入試センターの運営に関しては、各種委員会を通して各大学・高等学校関係者などの意見が十分に反映されるようになっています。

大学入試センター試験の運営



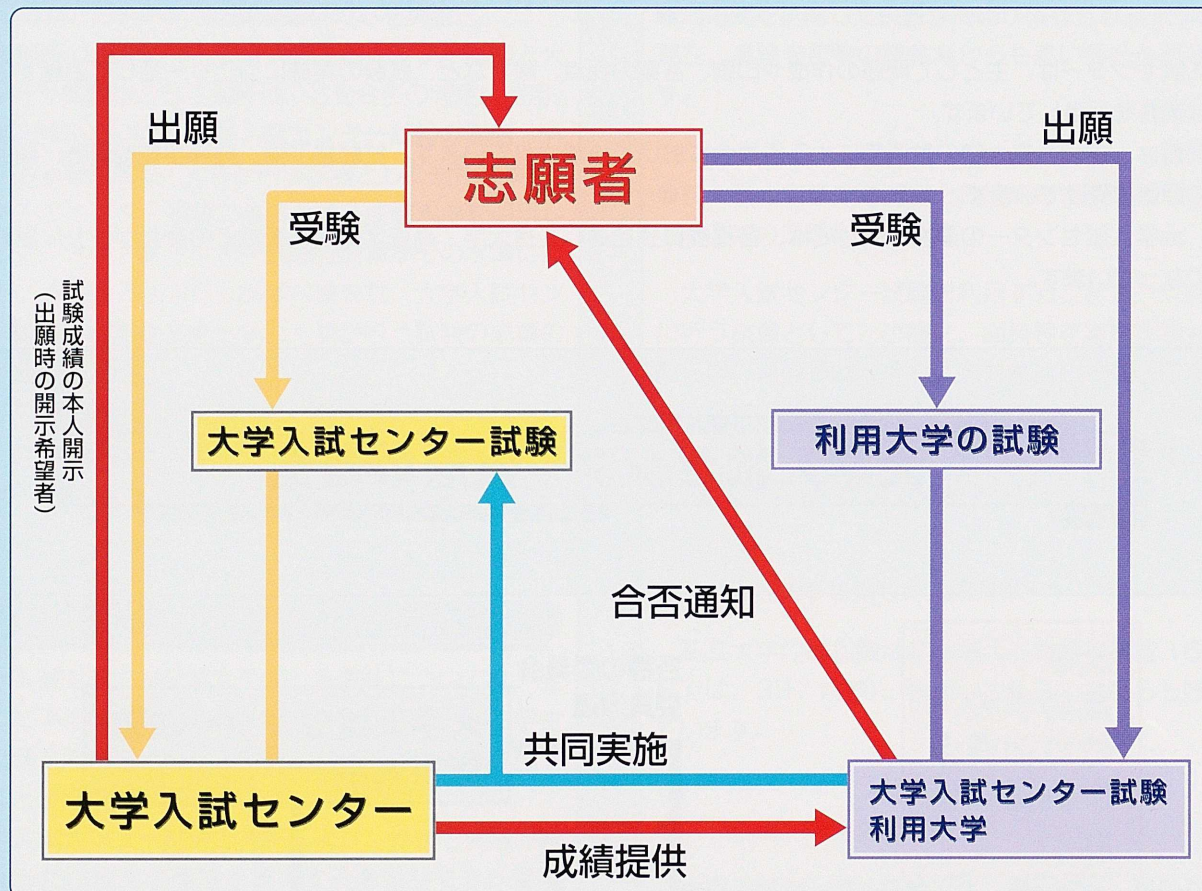
大学入試センター試験を利用した入試の仕組み

利用大学の役割

- 大学入試センター試験の利用教科・科目及び各大学の学力検査などの予告
- 試験場の設定、試験監督者などの選出
- 志願者への受験案内の配付
- 試験の実施
- 答案の整理、大学入試センターへの返送

大学入試センターの役割

- 試験問題の作成、印刷、輸送
- 受験案内、実施マニュアルなどの作成
- 出願の受付、試験場の指定、受験票の交付
- 答案の採点、集計
- 試験成績などの各大学への提供
- 試験成績の本人開示



- 検 定 料 3教科以上受験 16,000円
2教科以下受験 10,000円
- 成績開示手数料 出 願 時 800円
- 出 願 方 法
- (1) 高等学校若しくは中等教育学校卒業見込者は、在学している学校経由
- (2) 高等学校若しくは中等教育学校卒業者等は、直接郵送

- 試験場 原則として
- (1) 高等学校若しくは中等教育学校卒業見込者は、在学している学校が所在する試験地区内の試験場
 - (2) 高等学校若しくは中等教育学校卒業業者等は、居住する試験地区内の試験場

平成 16 年度大学入試センター試験の主な変更内容

試験時間割等の変更

－「理科」の物理と生物を同時に選択することを可能とするための措置－

《内容》

- 「理科」の試験コマ数が2 コマから3 コマに
- 1 日目の試験コマ数が4 コマから5 コマに（2 日目の試験コマ数は4 コマのまま変わらず）
- 両日とも第1 時限目の試験開始時刻が9 時30 分になり、全試験実施時間帯が繰り上げに
- 休憩時間の短縮

具体的な試験時間割等は、次ページの「平成16年度の出題教科・科目等」を御覧ください。

短期大学の大学入試センター試験利用

平成16年度大学入試センター試験から、従前の国公立大学の利用に加えて、短期大学も大学入試センター試験を利用できるようになりました。

大学入試センター試験を利用する短期大学は、12 ページの「平成 16 年度大学入試センター試験利用短期大学」を御覧ください。

平成 16 年度の出題教科・科目等

- 国公立、すべての大学が利用できる学力試験です。
- 高等学校教育に沿って、良質な試験問題を用意します。
- 出題科目は、各大学が利用しやすいよう工夫されています。
- 受験者は大学があらかじめ指定した教科・科目を受験することとなります。

期日	教科・科目	時間・配点	出題方法等	科目選択の方法等
平成 16 年 1 月 17 日 (土)	外国語 注 1 「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	9 : 30 ～ 10 : 50 (200 点)	『英語』は、「英語 I」に加えて「オーラル・コミュニケーション A」、「オーラル・コミュニケーション B」及び「オーラル・コミュニケーション C」に共通する事項を出題範囲とする。	左の 5 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」又は「韓国語」の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申し出ること。
	地理歴史 「世界史 A」 「世界史 B」 「日本史 A」 「日本史 B」 「地理 A」 「地理 B」	11 : 35 ～ 12 : 35 (100 点)		左の 6 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。
	理科① 「総合理科」 「物理 I A」 「物理 I B」	13 : 50 ～ 14 : 50 (100 点)		左の 3 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。
	理科② 「化学 I A」 「化学 I B」 「地学 I A」 「地学 I B」	15 : 35 ～ 16 : 35 (100 点)		左の 4 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。
	理科③ 「生物 I A」 「生物 I B」	17 : 20 ～ 18 : 20 (100 点)		左の 2 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。
平成 16 年 1 月 18 日 (日)	国語 注 2 「国語 I」 「国語 I・国語 II」	9 : 30 ～ 10 : 50 (200 点)	『国語 I・国語 II』は、「国語 I」と「国語 II」を総合した出題範囲とする。 『国語 I』と『国語 I・国語 II』は、いずれも近代以降の文章、古典（古文、漢文）を出題する。	左の 2 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。
	数学① 「数学 I」 「数学 I・数学 A」	11 : 35 ～ 12 : 35 (100 点)	『数学 I・数学 A』は、「数学 I」と「数学 A」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学 A」の 4 項目の内容のうち、〔数と式〕を含む 2 項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔数と式、平面幾何、数列、計算とコンピュータ〕	左の 2 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。
	数学② 「数学 II」 「数学 II・数学 B」 「工業数理」 「簿記」 「情報関係基礎」	13 : 50 ～ 14 : 50 (100 点)	『数学 II・数学 B』は、「数学 II」と「数学 B」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学 B」の 4 項目の内容のうち、2 項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔ベクトル、複素数と複素数平面、確率分布、算法とコンピュータ〕 『情報関係基礎』は、職業教育を主とする家庭、農業、工業、商業、水産、看護の各科及び総合学科において開設されている情報に関する科目に共通する内容を出題範囲とする。	左の 5 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「工業数理」、「簿記」又は『情報関係基礎』の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申し出ること。
	公民 「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」	15 : 35 ～ 16 : 35 (100 点)		左の 3 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。

注 1) 「ドイツ語」の表記は、ドイツ語圏で実施されている新正書法によります。ただし、平成 17 年度大学入試センター試験までは、旧正書法による表記も併記します。
注 2) 「国語」は「近代以降の文章（2 問 100 点）、古典（古文（1 問 50 点）、漢文（1 問 50 点））」で構成されており、大学によっては、分野別に利用を指定することができるようになっています。

平成 16 年度大学入学者選抜実施日程

平成 15 年 6 月	大学入試センター試験の実施要項を発表
7 月 31 日 (木) まで	各国公立大学が個別学力検査等の選抜要項を発表
9 月 1 日 (月) から	大学入試センター試験の受験案内を配付
10 月 6 日 (月) ～ 17 日 (金)	大学入試センター試験の出願受付 (大学入試センター試験の成績開示希望受付)
10 月下旬から 11 月中旬まで	大学入試センター試験の志願者に確認はがきを送付
12 月 15 日 (月) まで	各国公立大学が個別学力検査等の募集要項を発表
12 月上旬から 12 月中旬まで	大学入試センター試験の志願者に受験票等を送付
平成 16 年 1 月 17 日 (土) ・ 18 日 (日)	大学入試センター試験の本試験を実施
1 月 17 日 (土) ・ 18 日 (日)	大学入試センター試験問題の正解等を発表
1 月 21 日 (水) [予定]	大学入試センター試験の平均点等の中間発表
1 月 23 日 (金) [予定]	大学入試センター試験の得点調整実施の有無の発表
1 月 24 日 (土) ・ 25 日 (日)	大学入試センター試験の追試験を実施
1 月 26 日 (月) ～ 2 月 4 日 (水)	各 国 公 立 大 学 の 出 願 受 付
2 月 2 日 (月) から	大学入試センター試験成績の各大学への提供を開始
2 月 5 日 (木) [予定]	大学入試センター試験の平均点等の最終発表
2 月 25 日 (水) から	国 公 立 大 学 前 期 日 程 の 試 験 を 実 施
3 月 8 日 (月) 以降	公立大学中期日程（旧 C 日程）の試験を実施
3 月 12 日 (金) 以降	国 公 立 大 学 後 期 日 程 の 試 験 を 実 施
5 月 1 日 (土) 以降	大学入試センター試験の成績開示希望者に成績通知書を送付

注 1) 国公立大学の実施日程は、上記日程と一部異なる場合があります。
注 2) 私立大学・短期大学は、出願期日、試験日とも各大学が設定しています。

平成16年度大学入試センター試験利用大学 - 555大学 -

国立大学 93大学 (全大学)

北海道大学	千葉大学	金沢大学	大阪外国語大学	高知大学
北海道教育大学	東京大学	福井大学	大阪教育大学	高知医科大学
室蘭工業大学	東京医科歯科大学	福井医科大学	兵庫教育大学	福岡教育大学
小樽商科大学	東京外国語大学	山梨大学	神戸大学	九州大学
帯広畜産大学	東京学芸大学	信州大学	神戸商船大学	九州芸術工科大学
旭川医科大学	東京農工大学	岐阜大学	奈良教育大学	九州工業大学
北見工業大学	東京芸術大学	静岡大学	奈良女子大学	佐賀大学
弘前大学	東京工業大学	浜松医科大学	和歌山大学	佐賀医科大学
岩手大学	東京商船大学	名古屋大学	鳥取大学	長崎大学
東北大学	東京水産大学	愛知教育大学	島根大学	熊本大学
宮城教育大学	お茶の水女子大学	名古屋工業大学	島根医科大学	大分大学
秋田大学	電気通信大学	豊橋技術科学大学	岡山大学	大分医科大学
山形大学	一橋大学	三重大学	広島大学	宮崎大学
福島大学	横浜国立大学	滋賀大学	山口大学	宮崎医科大学
茨城大学	新潟大学	滋賀医科大学	徳島大学	鹿児島大学
筑波大学	長岡技術科学大学	京都大学	鳴門教育大学	鹿屋体育大学
宇都宮大学	上越教育大学	京都教育大学	香川大学	琉球大学
群馬大学	富山大学	京都工芸繊維大学	香川医科大学	
埼玉大学	富山医科薬科大学	大阪大学	愛媛大学	

注) 国立大学について、東京商船大学と東京水産大学、福井大学と福井医科大学、神戸大学と神戸商船大学、島根大学と島根医科大学、香川大学と香川医科大学、高知大学と高知医科大学、九州大学と九州芸術工科大学、佐賀大学と佐賀医科大学、大分大学と大分医科大学及び宮崎大学と宮崎医科大学がそれぞれ統合された後は83大学(全大学)です。

公立大学 75大学 (全大学) ※は平成16年度新規利用大学

釧路公立大学	埼玉県立大学	岐阜薬科大学	神戸市外国語大学	下関市立大学
公立はこだて未来大学	東京都立大学	静岡県立大学	神戸市看護大学	山口県立大学
札幌医科大学	東京都立科学技術大学	愛知県立大学	神戸商科大学	高知女子大学
青森県立保健大学	東京都立保健科学大学	愛知県立看護大学	姫路工業大学	北九州市立大学
青森公立大学	※神奈川県立保健福祉大学	愛知県立芸術大学	兵庫県立看護大学	九州歯科大学
岩手県立大学	横浜国立大学	名古屋市立大学	奈良県立大学	福岡県立大学
秋田県立大学	新潟県立看護大学	三重県立看護大学	奈良県立医科大学	福岡女子大学
宮城大学	富山県立大学	滋賀県立大学	和歌山県立医科大学	県立長崎シーボルト大学
山形県立保健医療大学	石川県立看護大学	京都市立芸術大学	島根県立大学	長崎県立大学
会津大学	金沢美術工芸大学	京都府立大学	岡山県立大学	熊本県立大学
福島県立医科大学	福井県立大学	京都府立医科大学	尾道大学	大分県立看護科学大学
茨城県立医療大学	都留文科大学	大阪女子大学	県立広島女子大学	宮崎県立看護大学
群馬県立女子大学	山梨県立看護大学	大阪市立大学	広島県立大学	宮崎公立大学
高崎経済大学	長野県看護大学	大阪府立大学	広島県立保健福祉大学	沖縄県立看護大学
前橋工科大学	岐阜県立看護大学	大阪府立看護大学	広島市立大学	沖縄県立芸術大学

私立大学 387大学 986学部 ※は平成16年度新規利用大学 ☆は平成16年度新規利用学部がある大学

札幌大学	千歳科学技術大学	苫小牧駒澤大学	北海学園大学	北海道工業大学
札幌学院大学	天使大学	日本赤十字北海道看護大学	北海道浅井学園大学	北海道情報大学
札幌国際大学	道都大学	北星学園大学	北海道医療大学	※北海道東海大学

北海道文教大学	淑徳大学	東京経済大学	金沢学院大学	名古屋経済大学
北海道薬科大学	城西国際大学	東京工科大学	金沢工業大学	名古屋産業大学
酪農学園大学	聖徳大学	東京工芸大学	金沢星稜大学	名古屋商科大学
椎内北星学園大学	清和大学	東京純心女子大学	※金城大学	名古屋女子大学
青森大学	千葉工業大学	東京女子大学	※仁愛大学	☆名古屋文理大学
青森中央学院大学	※千葉商科大学	☆東京電機大学	福井工業大学	南山大学
八戸大学	東京情報大学	※東京富士大学	帝京科学大学	日本福祉大学
八戸工業大学	東京成徳大学	東京薬科大学	山梨英和大学	人間環境大学
※弘前学院大学	東洋学園大学	東京理科大学	山梨学院大学	☆名城大学
富士大学	麗澤大学	東邦大学	諏訪東京理科大学	皇學館大学
盛岡大学	※和洋女子大学	☆東洋大学	※清泉女学院大学	鈴鹿医療科学大学
石巻専修大学	亜細亜大学	二松学舎大学	長野大学	鈴鹿国際大学
※尚綱学院大学	上野学園大学	日本大学	松本大学	松阪大学
東北工業大学	桜美林大学	日本歯科大学	松本歯科大学	四日市大学
東北薬科大学	大妻女子大学	日本社会事業大学	朝日大学	※聖泉大学
いわき明星大学	嘉悦大学	☆日本女子大学	岐阜経済大学	☆平安女学院大学
郡山女子大学	北里大学	日本女子体育大学	岐阜女子大学	※大谷大学
常磐大学	共立女子大学	※日本文化大学	岐阜聖徳学園大学	※京都外国語大学
流通経済大学	共立薬科大学	☆法政大学	中京学院大学	京都学園大学
足利工業大学	☆杏林大学	星薬科大学	※中部学院大学	京都光華女子大学
国際医療福祉大学	慶應義塾大学	武蔵大学	東海女子大学	※京都嵯峨芸術大学
作新学院大学	恵泉女学園大学	武蔵工業大学	※静岡英和学院大学	京都産業大学
獨協医科大学	工学院大学	武蔵野大学	静岡産業大学	京都女子大学
那須大学	國學院大学	明治大学	静岡文化芸術大学	※京都造形芸術大学
白鷗大学	国士舘大学	明治学院大学	静岡理工科大学	京都創成大学
関東学園大学	☆駒澤大学	明治薬科大学	聖隷クリストファー大学	京都橘女子大学
共愛学園前橋国際大学	実践女子大学	明星大学	常葉学園大学	※京都ノートルダム女子大学
群馬社会福祉大学	芝浦工業大学	☆立教大学	浜松大学	京都文教大学
上武大学	順天堂大学	☆立正大学	富士常葉大学	京都薬科大学
高崎健康福祉大学	昭和大学	※ルーテル学院大学	愛知大学	種智院大学
高崎商科大学	☆昭和女子大学	和光大学	愛知学院大学	同志社大学
東京福祉大学	昭和薬科大学	早稲田大学	愛知学泉大学	同志社女子大学
跡見学園女子大学	※白百合女子大学	麻布大学	愛知工科大学	花園大学
共栄大学	杉野服飾大学	神奈川大学	愛知工業大学	佛教大学
埼玉工業大学	成蹊大学	神奈川工科大学	愛知産業大学	※明治鍼灸大学
十文字学園女子大学	成城大学	関東学院大学	愛知淑徳大学	立命館大学
城西大学	専修大学	相模女子大学	愛知みずほ大学	龍谷大学
尚美学園大学	創価大学	産能大学	※桜花学園大学	大阪学院大学
女子栄養大学	大正大学	湘南工科大学	金城学院大学	大阪経済大学
駿河台大学	大東文化大学	昭和音楽大学	嵯山女学園大学	大阪芸術大学
西武文理大学	高千穂大学	桐蔭横浜大学	星城大学	☆大阪工業大学
東京国際大学	拓殖大学	東洋英和女学院大学	大同工業大学	大阪国際大学
獨協大学	多摩大学	横浜商科大学	中京大学	大阪産業大学
文教大学	※玉川大学	敬和学園大学	中京女子大学	大阪樟蔭女子大学
文京学院大学	多摩美術大学	※長岡造形大学	中部大学	大阪商業大学
明海大学	中央大学	新潟経営大学	東海学園大学	※大阪成蹊大学
ものづくり大学	津田塾大学	新潟工科大学	同朋大学	大阪電気通信大学
江戸川大学	帝京大学	新潟国際情報大学	東邦学園大学	大阪人間科学大学
川村学園女子大学	☆東海大学	新潟産業大学	豊田工業大学	大阪明浄大学
神田外語大学	※東京音楽大学	※新潟薬科大学	豊橋創造大学	大阪薬科大学
☆敬愛大学	東京家政大学	高岡法科大学	名古屋外国語大学	大谷女子大学
秀明大学	※東京家政学院大学	富山国際大学	名古屋芸大	追手門学院大学

※関西大学	神戸学院大学	山陽学園大学	※聖カタリナ女子大学	長崎外国語大学
関西外国語大学	神戸松蔭女子学院大学	☆就実大学	松山大学	長崎国際大学
☆関西福祉科学大学	神戸女学院大学	中国学園大学	松山東雲女子大学	長崎純心大学
近畿大学	神戸女子大学	ノートルダム清心女子大学	高知工科大学	長崎総合科学大学
四天王寺国際仏教大学	神戸親和女子大学	美作大学	※九州栄養福祉大学	九州東海大学
摂南大学	神戸薬科大学	呉大学	九州共立大学	熊本学園大学
相愛大学	園田学園女子大学	比治山大学	☆九州国際大学	崇城大学
☆太成学院大学	姫路獨協大学	広島経済大学	九州産業大学	日本文理大学
帝塚山学院大学	兵庫大学	広島工業大学	九州情報大学	☆別府大学
梅花女子大学	武庫川女子大学	広島国際学院大学	九州女子大学	立命館アジア太平洋大学
羽衣国際大学	流通科学大学	広島修道大学	久留米大学	☆九州保健福祉大学
阪南大学	※畿央大学	広島女学院大学	久留米工業大学	南九州大学
プール学院大学	帝塚山大学	広島文教女子大学	産業医科大学	宮崎国際大学
桃山学院大学	☆天理大学	☆安田女子大学	※西南女学院大学	宮崎産業経営大学
英知大学	奈良大学	宇部フロンティア大学	筑紫女学園大学	鹿児島国際大学
大手前大学	奈良産業大学	東亜大学	西日本工業大学	☆鹿児島純心女子大学
関西国際大学	鳥取環境大学	☆徳山大学	☆福岡大学	志学館大学
関西学院大学	岡山学院大学	梅光学院大学	福岡工業大学	※沖縄大学
※近畿福祉大学	岡山商科大学	萩国際大学	福岡国際大学	沖縄国際大学
甲子園大学	岡山理科大学	山口東京理科大学	福岡歯科大学	名桜大学
甲南大学	吉備国際大学	四国大学	※福岡女学院大学	
甲南女子大学	☆倉敷芸術科学大学	徳島文理大学	活水女子大学	
神戸海星女子学院大学	くらしき作陽大学	高松大学	長崎ウエスレヤン大学	

注1) 大学入試センター試験を利用する大学によっては、学部・学科等により利用しない場合もあるので、各大学の募集要項などで確認してください。

注2) 私立大学の利用学部については、ホームページ (<http://www.dnc.ac.jp/>) を御覧ください。

大学入試センター試験利用大学数の推移

年度	国立大学	公立大学	私立大学 (利用定員)	計
2	95 大学	37 大学	16 大学 19 学部 (1,687 名)	148 大学
3	95 大学	39 大学	21 大学 24 学部 (2,124 名)	155 大学
4	95 大学	39 大学	32 大学 46 学部 (3,313 名)	166 大学
5	95 大学	41 大学	56 大学 85 学部 (4,714 名)	192 大学
6	95 大学	46 大学	73 大学 125 学部 (6,002 名)	214 大学
7	95 大学	48 大学	104 大学 189 学部 (8,322 名)	247 大学
8	95 大学	52 大学	122 大学 232 学部 (10,421 名)	269 大学
9	95 大学	53 大学	152 大学 322 学部 (13,596 名)	300 大学

注1) 平成16年度の私立大学の利用学部数・利用定員は、平成15年3月末現在のものです。

注2) 東京商船大学と東京水産大学、福井大学と福井医科大学、神戸大学と神戸商船大学、島根大学と島根医科大学、香川大学と香川医科大学、高知大学と高知医科大学、九州大学と九州芸術工科大学、佐賀大学と佐賀医科大学、大分大学と大分医科大学及び宮崎大学と宮崎医科大学がそれぞれ統合された後は、国立大学83大学、計545大学です。

平成16年度大学入試センター試験利用短期大学 - 99 短期大学 -

公立短期大学 10 短期大学 26 学科

山形県立米沢女子短期大学	群馬県立医療短期大学	静岡県立大学短期大学部	新見公立短期大学	大分県立芸術文化短期大学
会津大学短期大学部	石川県農業短期大学	大阪市立大学看護短期大学部	福山市立女子短期大学	鹿児島県立短期大学

私立短期大学 89 短期大学 211 学科

札幌国際大学短期大学部	東京成徳短期大学	光陵女子短期大学	神戸松蔭女子学院短期大学	広島文化短期大学
北海道浅井学園大学短期大学部	東京富士大学短期大学部	豊橋創造大学短期大学部	神戸女子短期大学	安田女子短期大学
酪農学園大学短期大学部	相模女子大学短期大学部	名古屋経済大学短期大学部	神戸常盤短期大学	梅光学院大学女子短期大学部
青森短期大学	東洋女子短期大学	名古屋女子大学短期大学部	産業技術短期大学	四国大学短期大学部
郡山女子大学短期大学部	日本大学短期大学部	名古屋短期大学	園田学園女子大学短期大学部	徳島文理大学短期大学部
白鷗大学女子短期大学部	文京学院短期大学	京都光華女子大学短期大学部	兵庫大学短期大学部	高松短期大学
高崎健康福祉大学短期大学部	立教女学院短期大学	京都女子大学短期大学部	武庫川女子大学短期大学部	今治明德短期大学
聖徳大学短期大学部	昭和音楽大学短期大学部	京都文教短期大学	畿央大学短期大学部	聖カタリナ女子短期大学
東京経営短期大学	星陵女子短期大学	明治鍼灸大学医療技術短期大学部	白鳳女子短期大学	松山東雲短期大学
青山学院女子短期大学	山梨学院短期大学	龍谷大学短期大学部	岡山短期大学	九州女子短期大学
校美林大学短期大学部	信州短期大学	大阪学院短期大学	作陽短期大学	聖マリア学院短期大学
大妻女子大学短期大学部	松本大学松商短期大学部	大阪芸術大学短期大学部	就実短期大学	福岡工業大学短期大学部
共立女子短期大学	静岡英和学院大学短期大学部	大阪産業大学短期大学部	順正短期大学	福岡女学院大学短期大学部
実践女子短期大学	静岡精華短期大学	大阪女学院短期大学	中国短期大学	佐賀女子短期大学
昭和女子大学短期大学部	常葉学園短期大学	関西外国語大学短期大学部	美作大学短期大学部	長崎外国語短期大学
女子栄養大学短期大学部	愛知学院大学短期大学部	近畿大学短期大学部	呉大学短期大学部	別府大学短期大学部
成城大学短期大学部	愛知工科大学短期大学部	四天王寺国際仏教大学短期大学部	鈴峯女子短期大学	鹿児島国際大学短期大学部
東京家政大学短期大学部	愛知みずほ大学短期大学部	ブル学院大学短期大学部	比治山大学短期大学部	

注) 大学入試センター試験を利用する短期大学によっては、学科・専攻等により利用しない場合もあるので、各短期大学の募集要項などで確認してください。

大学情報の提供 - 進路選択に役立てる -

【大学入試センターは、偏差値情報や大学に関する一面的な情報に依存せず、大学進学志望者が自らの志望・適性に応じて大学を自主的に選択できるよう、インターネットを利用したハートシステムによる情報検索サービスなどの大学情報提供事業を行っています。】

ハートシステムによる大学進学案内

ハートシステムの大学進学案内画面



ハートシステムとは、『Higher Education ARTiculation Support System』から命名したものであり、大学進学志望者自身が本当に入りたい大学を選ぶための情報を提供するシステムです。このシステムでは、全国すべての大学の協力を得て、大学進学志望者や高等学校等に個々の大学の教育に関する情報はもとより、所在地や専門分野、取得できる免許・資格などの希望条件から、全国の大学を対象に、志望する学部や学科等を探ることができる情報、そして各大学のキャンパス公開・大学説明会などの最新情報を提供しています。

■ハートシステムに関する問合せ先
大学入試センター管理部情報課 電話 03-5478-1235

ハートシステムのホームページアドレスは、<http://www.heart.dnc.ac.jp/>です。

お答えします、
大学入試センター試験

Q & A

Q 大学入試センター試験の出願に当たって、特に注意すべき点はどんなことですか？

A 大学入試センター試験は、すべての国公立大学と約 7 割の私立大学が利用する試験です。特に、出題教科・科目数が 6 教科 32 科目と多く、利用する大学での教科・科目の指定も複雑・多岐にわたっています。したがって、自分が志望する大学・学部等が、大学入試センター試験を利用するか否か、また利用する場合にはどのように利用するのか、募集要項等で十分確認し、併願校との関係も考えながら、受験教科・科目を決める必要があります（3 教科以上受験、2 教科以下受験の選択）。

なお、出願期間が試験実施日よりかなり早い時期（今年度は平成 15 年 10 月 6 日（月）から 17 日（金）まで）ですので、期間内に確実に出願手続を済ませるようにしてください。また、身体障害者等の志願者は、受験に当たって特別の措置が受けられますので、出願の際に、特別措置の内容等を「受験案内（別冊）」により、十分確認して所要の手続をとる必要があります。

Q 大学入試センター試験を利用している大学に、何校まで出願できますか？

A ●国公立大学を受験する場合
出願は、前期日程で試験を実施する大学・学部から一つ、後期日程で試験実施する大学・学部から一つ、公立大学の中期日程（旧 C 日程）の試験を実施する大学・学部から一つの、合計三つの大学・学部に出願・受験することが可能です。
●大学入試センター試験を利用する私立大学及び短期大学を受験する場合
大学の数に制限はありませんが、出願期日、試験日とも各大学・学部が設定していますので、各大学の募集要項等で確かめて出願・受験してください。

Q 大学入試センター試験の得点調整は、どのような場合に行われるのでしょうか？

A 大学入試センターとしては、問題作成の段階で著しい平均点差が生じないようできる限りの努力をしていますが、それでも大学入試センター試験の本試験において次の各科目間で、原則として、20 点以上の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合には、得点調整を行います。

- ア 地理歴史の「世界史 B」、「日本史 B」、「地理 B」の間
- イ 公民の「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の間
- ウ 理科の「物理 I B」、「化学 I B」、「生物 I B」、「地学 I B」の間

Q 各受験者の成績はどのように扱われるのですか？

A 答案は、大学入試センターで一括して採点します。その成績は、受験者が出願した大学からの請求に基づき、その大学に対して提供します。平成 14 年度大学入学者選抜から、大学の判断により、大学入試センター試験の前年度成績を当該年度の入学者選抜に利用できるようになり、これについても同様に提供します。なお、正解と配点については、試験終了直後に報道機関を通じて発表します。

また、大学入試センターでは、平成 14 年度大学入試センター試験から、出願時に希望した者に限り、翌年の 5 月 1 日以降に大学入試センター試験の成績を通知することとしています。なお、大学入試センター試験利用大学でも、当該大学の判断により受験者本人に、大学入試センター試験の成績を翌年の 4 月 16 日以降、開示して差し支えないこととしています。

Q 大学入試センターのホームページでは、どのような情報を提供しているのですか？

A 大学入試センターのホームページでは、大学入試センターの最新情報、報道発表一覧、大学入試センターの概要や過去の大学入試センター試験データ、大学入試センター試験の仕組み等を掲載しています。

なお、大学入試センター試験情報では、適宜、出題教科・科目、入学者選抜実施日程、受験案内、志願者数、試験問題の正解、平均点等を提供しています。

平成 17 年度以降の大学入試センター試験の情報も随時ホームページにて提供しています。

大学入試センターのホームページアドレスは、<http://www.dnc.ac.jp/> です。

Q 大学入試センター試験の受験案内はどこで入手できますか？
また、不明な点はどこに問い合わせをしたらよいでしょうか？

A ●平成 16 年度受験案内の配付
・配付時期 平成 15 年 9 月 1 日（月）から
・配付場所等 ①全国学校案内資料管理事務センター
（<http://www.telemail.ne.jp/gakkou/0102.htm>）
<大阪事務センター> 06-6231-5992
<東京事務センター> 03-3222-7984
②大学入試センター試験利用大学
●身体障害者等の志願者が受験特別措置を希望する場合に必要な平成 16 年度受験案内（別冊）は、大学入試センターに直接請求してください。
・配付時期 平成 15 年 9 月 1 日（月）から
・請求方法 官製はがき（表面に「受験案内（別冊）請求」と朱書）又は電話

■大学入試センター試験志願者問合せ先

大学入試センター事業第一課 電話 03-3465-8600

月曜～金曜 9 時 30 分～12 時、13 時～17 時（祝日及び創立記念日〈5 月 2 日〉を除く）

※電話による問合せは、原則として志願者本人が行ってください。

大学入試センターは、文部科学省所管の独立行政法人です。教材の訪問販売等は、一切行っておりません。



独立行政法人大学入試センター
〒153-8501 東京都目黒区駒場2丁目19番23号
電話 03-3468-3311 (代表)
ホームページアドレス <http://www.dnc.ac.jp/>

平成15年(2003年)6月発行